

事業コード	H17-建-継-3		区 分	国庫補助 県単独
事業名	国道道路改築費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築(バイパス)		班 名	高速道路・国道班 (tel) 018-860-2489
路線名等	国道285号		担当課長名	中山 敏夫
箇所名	北秋田市滝ノ沢		担当者名	主幹兼班長 佐藤 彰一
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	03	施策名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県管理国道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H15 ~ H22 (8年)		総事業費	65.0億円	国庫補助率	5.5/10
事業規模	延長 L=5,420m、幅員 W=6.5(12.0)m					
事業の立案に至る背景	<p>国道285号は、秋田市と県北地域を最短で結ぶ短絡路線で、国道7号を補完するとともに物流ネットワークの形成、大館能代空港の利活用を支援する重要な幹線道路である。</p> <p>当該区間は線形不良(最小半径R=40m)に加え、幅員狭小(車道幅員W=5.5m)のため大型車のすれ違いに支障を来し、更に急勾配(i=7.5%)区間が320mと連続しており、冬期における円滑な交通の確保が図れない状況にある。</p>					
事業目的	<p>道路防災対策・危機管理の充実(第2次緊急輸送路)</p> <p>交通の隘路区間(幅員狭小、線形不良、急坂路)の解消</p> <p>大館能代空港へのアクセス強化</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		6,500,000	6,500,000	0	
	経費内訳	工事費	5,304,000	5,304,000	0	
		用補費	700,000	700,000	0	
		その他	496,000	496,000	0	
	財源内訳	国庫補助	3,575,000	3,575,000	0	
		県債	1,170,000	1,170,000	0	
その他		0	0	0		
一般財源		1,755,000	1,755,000	0		
事業内容		調査・設計 改良・舗装工 橋梁工・トンネル工	調査・設計 改良・舗装工 橋梁工・トンネル工			
事業の進捗状況	用地買収(進捗率24%)及び現道拡幅部の改良工事(工事進捗率6.3%)に着手している。					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	あきた21総合計画における施策「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」を支援する事業。					
情勢の変化及び長期継続の理由	H17.3.22 旧森吉町が周辺市町村と合併して北秋田市となった。 市町村合併支援道路に指定された。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	旅行速度の向上				
	指標式	旅行速度km/h				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	50 km/h		データ等の出典	旅行速度調査	
	実績値 b	30 km/h				
達成率 b/a	60.0 %		把握の時期	平成17年7月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当該区間は最小曲線半径がR = 30 m、また最急勾配もi = 7.5%で堆雪幅も狭く、通学路指定区間に指定されているが歩道もないため、一年を通した交通の安全確保が望まれる。 特に積雪期には幅員狭小により車線から逸脱する車両があるほか、事故率も66件/億台kmと高い区間である。	13点
緊 急 性	本路線は県の主要プロジェクトである「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」に位置づけあり。 地域振興プロジェクト「広域観光ルート等交流を促進する国道・県道の整備」に位置づけあり。 市町村合併支援道路の位置づけあり。 大館・北秋方面からの3次医療救急アクセス道路としての位置づけあり。	15点
有 効 性	第2次緊急輸送路指定路線であり、災害や救急医療施設へのアクセス道路としての活用も見込まれ、防災計画上重要な幹線道路である。	28点
効 率 性	計画交通量は6,300台/日である。 事業の費用便益比は2.1であり、効率性は高い。 発生土50,000m ³ の工区内有効利用を検討中。	20点
熟 度	H16.4.20 旧森吉町長から早期完成の要望を受けている。 用地買収の進捗率は5割以下であるが、地元の了解は得ている。 事業手法として現道拡幅部を優先して整備を進めており、早期に整備効果を発現するよう事業を促進している。	7点
判 定	ランク () 秋田市と県北部を最短で結ぶ短絡路線で、国道7号を補完するとともに、大館能代空港を支援する重要な幹線道路である。平成15年新規箇所であり「熟度」は低いが、「必要性」「有効性」「効率性」も高いことから引き続き実施すべき事業である。	83点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H17-建-継-3)

適用基準名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)

箇所名 (北秋田市滝ノ沢)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	・車道幅員 < 5.5 m	3箇所以上	8	8	2次改築事業については該当しない。
	・最小半径 < 100 m	2箇所	6		
	・最急勾配 > 5 %	1箇所	4		
	・冬期堆雪巾なし	0箇所	0		
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7		
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6	5	2次改築は配点15点 2次改築は配点12点 2次改築は配点10点 2次改築は配点8点 2次改築は配点4点
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
	・通学路指定で歩道なし	1件該当	2		
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計		15	13		
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無				
	・県の主要プロジェクト	あり	5	5	
	・地域振興プロジェクト	なし	0		
	・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5	5	
	位置づけなし	0			
特有の課題の有無	あり	5	5		
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0			
計		15	15		
有効性	道路の位置づけ				
	緊急輸送路				
	第1次輸送路	あり	10	8	
	第2次輸送路	あり	8		
	第3次輸送路	あり	6		
	指定なし	なし	0		
県内90分交通体系、全国1日交通圏等	あり	10	10		
	なし	0			
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	10	10		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計		30	28		
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)				
	1.5以上	5	5		
	1.0以上~1.5未満	3			
	1.0未満	0			
	計画交通量				
	5,000台/日以上	5	5		
1,000台/日以上~5,000台日/未満	3				
1,000台/日未満	0				
コスト縮減	あり	5	5		
	なし	0			
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計		20	20		
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)				
	8割以上完了	10	5		
	5割以上完了	8			
	1割以上完了	5			
	1割未満	2	2		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了			10
	5割以上完了	8	5		
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
	未着手	0			
計		20	7		
合計			100	83	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		